

島根大学医学部内科学講座内科学第四医局報

# 道



~令和6年春号~



# 『道』

この道を行けば  
どうなるものか  
危ぶむ無かれ  
危ぶめば道はなし  
踏み出せば  
その一足が道となり  
その一足が道となる  
迷わず行けよ  
行けばわかるさ

## ～ タイトル『道』の由来について ～

『道』というタイトルの詩…。元々は、一休禅師の言葉だといわれていますが、一般にはアントニオ猪木が引退セレモニーのリング上で、ファンに送った最後のメッセージとして知られています。

田邊教授は、何か新しいことにチャレンジするとき、いつもこの詩を思い浮かべ、そして新しい道を切り開かんとする若者に、この詩を贈ってきたそうです。

島根大学医学部内科学講座第四も、常に前向きにチャレンジすることを忘れず、ただひたすらに医師としての『道』を進んでいこう…そういう想いを込めて、この『道』というタイトルを選びました。



2024年3月日本循環器学会学術集会で中谷敏先生と

新緑の美しい季節になりました。皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。新しい年度を迎え、新しい人とあるいは新しい環境で新しい繋がりを持つ経験が始まります。スティーブ・ジョブズの「コネクティング ザ ドット」、点と点を繋ぐという言葉がこの時期頭をよぎります。大学でカリグラフィを学んだことが後にMacの美しいフォントデザインに役に立った体験から出た言葉ですが、経験が思いもよらぬところで繋がり、新しい価値を生み出すきっかけになります。偶然ともいえる人の出会いがネットワークとなります。それぞれが役割を担っており、個として自身の力を高め、お互いに影響を与え合う存在として新たな一歩を進めていきたいと思えます。今年度もご指導よろしくお願ひ申し上げます。

大学循環器内科では2024年3月末で公受伸之先生が退職されました。公受先生は4月からしばらく漢方の勉強をされたのち、故郷の愛媛県で勤務されることになりました。公受先生には学生教育を担当していただき、臨床実習のベッドサイド教育、座学での教育に時間をかけていただきました。また公受先生のライフワークともいえる希少疾患のオスラー病について診療、教育をしていただきました。

4月からの異動としまして安田優先生、竹内健吾先生に浜田医療センターに赴任していただきました。竹内先生は内科専門医プログラムの連携施設研修の一環です。浜田医療センターの三浦重禎先生は札幌心臓血管クリニックへ、河野由依先生は島根県立中央病院へ



公受先生によるオスラー病の講義

異動していただきました。大学へは岡田大司先生（神戸市立医療センター中央市民病院）、古志野海人先生（札幌心臓血管クリニック）、古田まどか先生（島根県立中央病院）に帰局していただき、内科専攻医1年目として田中俊太郎先生、長谷川友哉先生、花本航希先生を迎えました。



2024年3月に神戸で開催された日本循環器学会学術集会で大阪府済生会千里病院院長の中谷敏先生と共同座長を務めました（冒頭の写真）。中谷先生は大阪大学卒ですが、学年は2年先輩で、最初の出会いは私の1989年からの国立循環器病センター研修時代でした。外国からの来客に流暢な英語で対応され、できる先生だなというのが第一印象でした。私が卒後5年目だったので、中谷先生は卒後7年目でしたが、その年のAHAに2演題通されたり、Circulationの論文があったり、島根から出てきた若造にとって中谷先生の背中は

見えませんが、憧れの存在として中谷先生の通られる道を道標にしようと心に決めました。当直の夜に論文を書いておられる姿を見て自分もそうし、働く場所は違いますが、海外の学会での発表、アメリカ留学と自分も必死で追いかけてきました。中谷先生が日本心エコー図学会理事長に就かれた際には、私は理事として学会誌Journal of Echocardiographyの編集長をまかされました。Journal of Echocardiographyの目標はインパクトファクター（IF）獲得でした。IF獲得のハードルが年々上がり、時間はかかりましたが、2023年に念願の

IF獲得に漕ぎつけました（IF 1.6）。私はこの春（2024年）に理事、編集長の任務を終えることになりましたが、中谷先生に出会ってから35年、数年後にはあなりたいと目標を持ちながら目の前の仕事に取り組んできました。結果として高いところまで連れてきていただきました。この春も若い医師たちが登山口をみつけて山を登り始めました。働き方改革もあり、古い考え方を押し付けることはできません。ちょっと先に登り始めたできる医師を目標に進んでいってほしいと思います。

## ● 令和6年度の腎臓内科の体制につきまして

腎臓内科教授  
神田 武志



山口大学・佐野元昭教授と

令和6年度の腎臓内科の体制につきましてご報告致します。

4月より慶應義塾大学腎臓内分分泌代謝内科から吉野純先生が准教授として着任しました。彼は老化、生活習慣病に関わるNAD代謝の世界的な研究者で、今回島根にご縁があり赴任することとなりました。また順天堂大学腎・高血圧内科から上田誠二先生をはじめ3名の先生が統合腎疾患制御研究・開発センターに着任し、計8名で腎臓内科、血液浄化部の診療にあたっています。更に4月よりオール島根内科専門医研修プログラムで腎臓内科専門医を目指す3名が新たに加わりました。島根大学医学部出身の森山志保先生、自治医科大学出身の田仲航平先生、今岡直也先生です。彼らの加入によって今後の島根県内の腎臓内科診療の充実に貢献できることを期待しています。

診療面では当科の目標である慢性腎臓病、高血圧診療を中心とした高齢化対策を推進して参ります。これまで島根県では県単位、市町村単位のCKD地域連携システムが確立しておりませんでしたので早急に自治体、地域の先生方との協力体制を構築して参ります。出雲市では島根大学医学部腎臓内科と島根県立中央病院腎臓科が中心となり、松江市では松江赤十字病院を中心としてCKD地域連携を本年度前半より開始します。地域連携としてかかりつけの先生方、腎臓専門医の二人主治医体制で管理栄養士、運動療法士、腎臓病療養指導士等コメディカルの方々と協力しながら早期介入、集学的治療をすすめ透析予防をすすめていきたいと考えています。

教育、診療面については県内の腎臓専門医、隣県の山口県の腎臓専門医の先生方と協力しながらWEBで症例検討会を隔週のペースで開始しました。残念ながら両県とも腎臓内科医が不足しており、皆でディスカッションを行い病理学の先生のご指導を仰ぎながら症例を共有することにより若手医師の診療レベルの向上を図っています。

研究面では吉野純准教授が赴任し更に腎臓老化について検討をすすめていきます。4月よりNorwegian University of Science and TechnologyよりSakib Mowdood君が博士課程に入学しました。NAD代謝を中心に腎臓老化制御を目的とした研究を推進して参ります。

今後とも腎臓内科にご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

## 循環器内科 新入医局員 挨拶



向かって左から田中先生、長谷川先生、花本先生

### 田中俊太郎

この度入局いたしました、田中俊太郎と申します。島根県浜田市出身で、島根大学の卒業になります。循環器内科のイメージとして、多忙、勤勉、真摯なキャラクター性があり、学生時代には雲の上の存在だと思っておりました。そんな私がいま循環器内科医として歩み始めていること、誇りに思いますし、またプレッシャーでもあります。

初期臨床研修では2ヶ月の循環器内科研修から始まりました。カテーテル治療や心電図に魅了され、また心不全患者さんを診るなかでやるせなさを感じ、進路に悩む私に気をかけてくださるメンターに出会い、気付けば心臓・循環を診たいという思いが湧いていました。日々業務に追われ、優秀とは程遠い私ですが、自分のペースで成長できればと思います。ご迷惑おかけいたしますが、今後とも何卒宜しく願い申し上げます。

### 長谷川友哉

循環器内科専攻医1年目の長谷川友哉と申します。この度は循環器内科に入局することになりましたこと、大変光栄に存じます。松江市東出雲町出身で、幼少期から大学までサッカーをしておりました。循環器の面白さはもちろんのこと、田邊教授をはじめとするサッカー部の先輩方との繋がりも志望させていただいた決め手として大きかったです。

これからは偉大な先輩方から多くのことを学びながら、自らの技術や知識を磨き、チームの一員として、さらには島根の循環器を引っ張っていく存在として貢献できるように努めて参ります。今後ともご指導とご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

### 花本 航希

初めまして。令和6年度に島根大学医学部附属病院循環器内科に入局いたしました。花本航希と申します。島根県浜田市出身で、島根大学在学中は軟式テニス部に所属していました。卒業後は、島根県の浜田医療センターで初期研修を行いました。学生時代のポリクリで心電図に興味を持ち、初期研修中に内科的な外来・病棟管理に加えて、カテーテルなどの手技もできるところに魅力を感じ、循環器内科に入局させていただくことになりました。

4月より専攻医として勤務を開始して、病棟業務や手技など、上級医の先生方や看護師さん、その他医療スタッフの皆様にご指導いただきながら充実した日々を過ごさせていただいています。1日でも早く独立立ちできるように精進していく所存ですので、ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしく願いいたします。



27期生の岡田大司（おかだたいじ）です。2024年4月より改めて島根大学医学部附属病院に勤務しています。田邊教授体制の最初の冬2008年度1月～3月に初期研修で循環器内科を回ったのが、医師としての重要な分岐点でした。医局報の機会をいただきましたので、若手が知らない私の15年の歩みとともに、私の今の考えを述べさせていただきます。

2010年度4人の同期とともに循環器内科スタートしました。毎日病棟で遅くまで仕事をしたのを思い出します。2011年度には私は大学に残り、2012年度に神戸市立医療センター中央市民病院に無給の研修生として勤務しました。当時は、患者数に差はありますが島根と神戸でやっている臨床内容に違いはなく、とにかく数を経験できた事は、島根に戻った2013年度からの仕事に活かしました。また、まだ島根の人数も少なく、CAG/PCI、TTE/TEE、デバイスと多岐にわたりご指導、経験できました。また、2014年度から病棟医長もさせていただきます、大学病院としてのマネージメントの難しさも学びました。2019年度から浜田医療センターに出向しましたが、浜田でもインターベンションの奥深さを目の当たりにし、また、地域におられる先生方、メディカルスタッフのおかげで島根県が支えられている事を実感しました。そんな中、神戸市立医療センター中央市民病院の北井豪先生（現国立循環器病研究センター心不全科部長）より、神戸市立医療センター中央市民病院での勤務のオファーをいただきました。北井先生は研修生の時のメンターとしてだけでなく、その後の研究、学会など交流を継続していた尊敬する先生の一人で、誘われ時にはうれしい気持ちでした。それ

とともに、神戸でスタッフとして通用するのかという不安、また、医師の少ない島根県から出てよいのか葛藤があり、二つ返事では答える事ができませんでした。田邊教授にも相談、助言いただき、最終的には自分の決断で神戸に行くことを決めました。

2020年度はまさにコロナ全盛期でしたので、とにかく、色々な事が煩雑で苦勞し、とんでもないタイミングで来てしまったと思いましたが、収束したところから、徐々に本来の中央市民病院に戻りました。2020年度は北井先生と業務を分担して行っていたのですが、2021年度に北井先生が国立循環器病研究センターに異動された後は、エコー室長としての業務を主に行いました。エコー室の業務は、毎日50-60件のTTE診断、2-5件のTEEを通常業務として、Mitra clip、ASD/PFO閉鎖術、左心耳閉鎖術、僧帽弁形成術などの開心術がある時には術中TEEを行っていました。また、神経内科の先生とともにESUSの原因としてPFO検索も積極的に行いました。TAVIはPCIのようにオーダーが入るため、術中TTEはオペレーター自ら行っていました。また、週1回はカテーテル日を残していただき、そこでCAG/PCI/EVTを忘れない程度の技術保持を行いながら、夜間・休日のACS、E-CPR対応は何とかトラブルなくこなすことができました。島根でのインターベンション、エコーのご指導のおかげで中央市民という伝統ある施設でスタッフとしての働くことができました。また、特定臨床研究、治験、多施設研究などの多くの研究の機会、自施設の研究でもACC、AHA、ESCに参加し、論文にもつながりました。心エコー図学会の組織である若手心エコーフェローの会の関西幹事をさせていただくなど多くの医師・技師とのご縁に恵まれました。他、働き方改革が進んでおり、休日は多くて2日間の束縛、学会、研究会などが無い休日には、家族とJリーグ観戦、プロ野球観戦、電車でぶらり旅などをして、コロナの中でも充実していたと思います。コロナ禍でマラソンも趣味に加わりました。

以上に述べたように、私は島根県出身で、地元で医師としての基盤を築き、2019年に浜田医療センターで地域医療に従事し、2020年より神戸市立医療センター中央市民病院での循環器内科医として経験を積みました。最終的に、主に心エコー図検査に焦点を当て、超音波室だけでなく手術場での経食道心エコー図検査で



2024年ESC発表



2024年AHA初NBA観戦



2024年ESC島根大学サッカー部集合



2024年阪神優勝



2024年ヴィッセル優勝

侵襲的治療の補助を行いました。さらに、治験、多施設研究、単施設研究など多岐にわたる臨床研究に参加し、研究への経験を得るとともに情熱も深めています。神戸に行くに決めた時に、軸に置いたものは、『島根の未来の発展』です。自分はもちろん周りも成長できる環境にするために、どう動けばよいか計画、失敗、計画を繰り返して、更に発展できればと考えています。診療では単なる経験を活かすだけでなく、島根県で提供できる検査・治療において遅れない環境を構築し

たいです。また、多施設研究への参加と共に、島根大学を拠点にオリジナルな研究を展開したいと考えております。医療者の働き方改革や地域医療にも積極的に取り組み、循環器内科の働き方をより魅力的にし、医師確保に向けて努力したいと思います。故郷である島根県の医療発展に寄与できるよう、精一杯努めてまいります。学生教育も頑張ります。長文になりましたが、今後ともご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

# 業績

## 論文・著書・総説 (2023年秋号以降掲載、掲載決定分)

1. Tanabe K, Tanabe J. Role of echocardiography in patients treated with immune checkpoints inhibitors. J Echocardiogr 2023;21 (4):145-148
2. Kawahara H, Endo A, Uchida K, Tanabe K. Prognostic role of apolipoproteins on long-term major adverse cardiac events after percutaneous coronary intervention. Cardiovasc Revasc Med 2024 Apr;61:85-92
3. Morita Y, Kashima Y, Yasuda Y, Kanno D, Hachinohe D, Sugie T, Endo A, Fujita T, Tanabe K. Burr entrapment in a percutaneous coronary intervention during rotational atherectomy: an experience with 3195 cases. J Invasive Cardiol 2023;35 (10)
4. Tanabe J, Wada H, Suehiro S, Yoshitomi H, Endo A, Yamazaki K, Tanabe K. A case of prosthetic valve endocarditis with increased vegetation size despite appropriate antibiotic therapy. J Echocardiogr 2024, Feb 29
5. Daimon M, Watanabe H, Nakanishi K, Abe Y, Hirata K, Ishii K, Iwakura K, Izumi C, Abe H, Negishi K, Ito H, Tanabe K, Tanaka N, Nakatani S. Is left ventricular diameter indexed for body surface area appropriate for assessing left ventricular dilation? J Cardiol 2024, Mar 21
6. Adachi K, Yasuda M, Ida M, Kanda T, Morita A, Wakino S, Watanabe S, Itoh H. Impact of dietary habits on renal function in Saku, a rural Japanese town: a cohort study. Clin Exp Nephrol. 2024 Mar 12.
7. Sakamoto T, Asanuma T, Uchida K, Kawahara H, Endo A, Yoshitomi H, Tanabe K. Evaluation of thyroid congestion in patients with heart failure using shear wave elastography. Medicine 2024 May 10;103 (19): e38159
8. Yamasaki S, Sakamoto T, Endo A, Yoshitomi H, Tanabe K. Combinational elastography prior to pericardiectomy to assess liver condition in patients with constrictive pericarditis. J Cardiol Cases 2024 (in press)

## 学会・研究会発表 (2023年秋号以降)

1. 田邊淳也、川波由佳、安田謙二、城麻衣子、末廣章一、吉富裕之、遠藤昭博、中田朋宏、山崎和裕、田邊一明。成人期に手術を施行した右肺動脈大動脈起始の一例。第25回日本成人先天性心疾患学会。2024.1.6-7、東京
2. Kazuaki Tanabe (Commentator). Late Breaking Clinical Trials 1. 第88回日本循環器学会学術集会。2024.3.8-10、神戸
3. 田邊淳也、森田祐介、竹内健悟、山口一人、山崎誠太、安田 優、川原 洋、公受伸之、香川雄三、佐藤寛大、渡邊伸英、遠藤昭博、田邊一明。Current status of GDMT optimization for HF rEF at the university hospital located in a super-aging area. 第88回日本循環器学会学術集会。2024.3.8-10、神戸
4. 森田祐介、白田春樹、田邊淳也、山崎誠太、安田 優、川原 洋、香川雄三、佐藤寛大、公受伸之、遠藤昭博、和田孝一郎、田邊一明。Oral microbiome composition and presence of pathogenic bacteria in patients with cardiovascular disease. 第88回日本循環器学会学術集会。2024.3.8-10、神戸
5. 山口一人、川原 洋、田邊淳也、清水弘治、公受伸之、遠藤昭博、吉富裕之、田邊一明。急性心筋梗塞後に心室中隔穿孔を合併した一例。日本心エコー図学会第35回学術集会。2024.4.19-21、姫路
6. 山崎誠太、竹内健悟、田邊淳也、安田 優、森田祐介、川原 洋、香川雄三、佐藤寛大、渡邊伸英、山口一人、公受伸之、吉富裕之、遠藤昭博、田邊一明。Systolic anterior motion を伴った後尖逸脱による重症僧帽弁逆流に対してMitraClipを施行した一例。日本心エコー図学会第35回学術集会。2024.4.19-21、姫路
7. 田邊淳也、山口一人、竹内健悟、山崎誠太、安田 優、森田祐介、川原 洋、香川雄三、佐藤寛大、渡邊伸英、公受伸之、遠藤昭博、吉富裕之、田邊一明。高齢者心不全患者における心エコー図検査による心機能・形態学的特徴と臨床転帰の関係について。日本心エコー図学会第35回学術集会。2024.4.19-21、姫路
8. 田邊淳也、大内 武、伊藤俊輔、川原 洋、佐藤寛大、高橋 勉、遠藤昭博、新野大介、鈴木律郎、田邊一明。AL合併ATTR心アミロイドーシスの一例。第10回日本心筋症研究会。2024.5.11、名古屋



## ● 学位が授与されました



循環器内科・川原洋先生が“Prognostic role of apolipoproteins on long-term major adverse cardiac events after percutaneous coronary intervention.”のタイトルで、循環器内科・安田優先生が“Incidence of mid-term prognostic events in patients with acute coronary syndrome during the late-2010s in two tertiary hospitals in a rural area of Japan: A temporal comparison.”のタイトルでそれぞれ学位論文を発表され、医学博士の学位が授与されました。おめでとうございます。

## 学会報告

### ● 第25回日本成人先天性心疾患学会

田邊 一明

2024年1月6日～8日日本成人先天性心疾患学会学術集会在東京・一橋講堂で開催されました。大学から発表した症例は30歳代女性で成人期になって診断された右肺動脈大動脈起始症の手術症例で、右肺動脈圧が大動脈圧と等圧となる肺高血圧症に肺動静脈瘻を合併していました。術前診断は循環器内科、小児科の合同で行い、手術適応や術式については小児心臓外科も含めた院内だけでなく、岡山大学との合同カンファレ

ンスも行い決定しました。そして島根大学病院で右肺動脈を人工血管を使って肺動脈に吻合する修復術を行い、内科的に肺高血圧症の薬物治療を継続することで手術6か月後には肺動脈圧が正常化しました。集学的な治療の成果として報道発表も行いました。大学では成人先天性心疾患（ACHD）カンファレンスを毎月行い勉強しています。ACHD外来には成人のフォンタン術後症例の紹介も受けるようになりました。



## ● Echo Hawaii 2024

田邊 一明



Oh先生 (Mayo Clinic) と

2024年1月15日～1月19日ハワイ島で開催されたEcho Hawaii 2024に循環器内科・竹内健吾先生と参加してきました。会場はハワイ島コナ空港から車で30分ほどのコハラコースト、Fairmont Orchid Hawaiiというホテルで、昨年と会場は変わっていましたが、ホテ

ルの前はビーチ、周囲をゴルフ場が囲み、海と反対側は4000メートルの火山と溶岩台地というリゾートホテルでした。

Echo Hawaiiは朝6時30分から会場で朝食が出て、朝7時から昼12時過ぎまで講義や症例提示、午後はフリーというプログラムが月曜日から金曜日まで繰り返される講習会です。講義は15分刻みでアメリカ、カナダの医師やソノグラファーが壇上に立ちます。Mayo ClinicのOh先生は70歳を過ぎても世界のスタンダードを作り続けられており、エネルギーをもらいにまた会いに来ようと思いました。

今回は午後のフリータイムを利用して、ホテル近くのMuna Laniゴルフコースでゴルフもしてきました。溶岩の上に作られた難コースで、チャレンジングでしたが、景色は美しく、ハワイらしさを満喫することができました。



## ● 第88回日本循環器学会

田邊 一明

2024年3月8日～10日、神戸ポートピアホテルを中心に国際会議場、展示場などの施設で第88回日本循環器学会学術集會が開催されました。

北村順先生（新神戸きたむら内科・循環器・漢方クリニック）はランチョンセミナーで「胸痛に役立つ漢方薬の使い方」の講演をされました。質問が後を絶たず、反響の大きさを感じました。同門会長の佐藤秀俊先生も聴講、質問されていました。私も最近、冠攣縮

性狭心症を疑う患者に四逆散+桂枝茯苓丸が著効した症例を経験しました。北村先生の講演で勉強になったのは、それでCa拮抗薬や冠拡張薬を止めてはいけないということでした。

伊藤新平先生（伊藤医院）は「これからの循環器地域医療」のセッションに招かれて「循環器在宅診療」について発表されました。心臓リハビリテーションに取り組んでおられる開業の先生のモデルとして注目さ



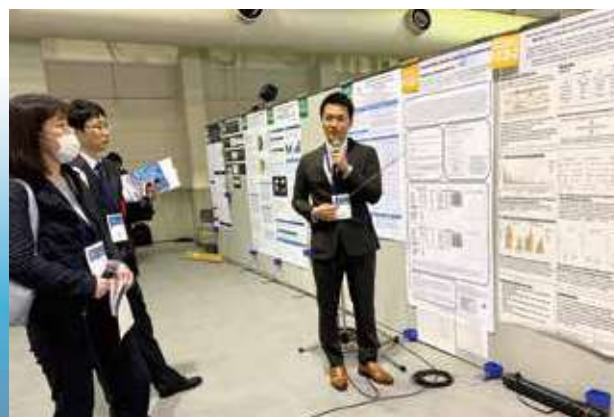
国循時代の恩師・別府先生を囲んで



浅沼先生、北村先生と

れています。医局からも臨床研究を発表し、各自の立ち位置が確認できたと思います。

「日循で集まりましょう」と連絡をいただきます。日循は集まる理由になります。来年は3月28日～3月30日、横浜で開催されます。



## ● 同門会長挨拶

佐藤内科クリニック  
佐藤 秀俊



立夏の候、同門会員、そして医局員の皆様には益々御清栄の事とお慶び申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が感染症法分類第5類に変更になり最初のゴールデンウィークを迎えましたが、幸いにも社会生活を揺るがすほどの影響はなく、通常の日常診療を送っていただけることと思います。しかし寒暖の差が激しく体調を崩しやすい日々ですので皆様どうかご自愛くださいますようお願い申し上げます。

本年度の同門会総会は、令和6年10月12日土曜日に出雲ロイヤルホテルにて行うことにしております。本年の同門会総会も昨年と同様に第一部で同門会員あるいは医局員の学術講演会を行い、第二部で同門会総会、食事会を行うことといたします。皆様には詳細を改めてご案内をさせていただきますが、同日のスケジュール調整を早速お願いできれば幸いです。たくさんの皆様のご参加をお待ちしております。どうぞよろしく願いいたします。

昨年の同門会総会で田邊教授より、同門会から医局への寄付のご依頼がありました。井上副会長や会計事務所にも相談し、同門会より寄付を行うことにいたしました。この内容につきましては、本年度の同門会総会でご報告させていただきます。例年5月に開催しております春の田邊杯ゴルフコンペ（医局コンペ）は、ゴルフ幹事の井上副会長のご尽力により、5月19日曜日に大社カントリーで開催されます。今回も同門会と医局の交流の場として楽しく語らいながらラウンドできることを願っております。これからも更に内科学講座内科学第四が発展することを願い、同門会として全力で応援させていただきます。

今後とも私と井上副会長に皆様のお力添えをいただきますようどうかよろしくようお願い申し上げます。

## ● 第29回第四内科田邊杯ゴルフコンペ結果報告

同門会ゴルフ幹事  
井上 慎一

令和6年5月19日、第29回田邊杯をいずも大社カントリークラブで開催いたしました。天候にも恵まれ絶好のコンディションのなか13名の先生方と楽しい時間を過ごさせていただきました。

今回はすべての先生方に優勝の可能性がある激戦の中、佐藤秀俊先生が4連覇中の後藤泰利先生を2打上回り見事初優勝されました。おめでとうございます。ドラコンは佐藤寛大先生、山口直人先生、ニアピンは田邊一明先生、後藤泰利先生、北村順先生が獲得され、私 井上もいただきました。また、田中俊太郎先生、長谷川友哉先生、花本航希先生は初めてのラウンドで緊張されたと思います。皆さん、



初心者とは思えない結果で今後の上達がとても楽しみです。是非、また一緒にラウンドいたしましょう！梅野哲弘先生、北村順先生には遠方から駆けつけて頂き誠にありがとうございました。

3人の新入局の先生方を迎えてのコンペは本当に楽しい時間でした。御参加頂いた先生方には重ねて御礼申し上げます。次回は田邊杯30回の記念コンペになります。開催は同門会総会翌日の令和6年10月13日（日）の予定です。腕前は問いません。多くの先生方の御参加を心からお待ちしております。

順位	競技者名	out	in	GROSS	HDCP	NET
優勝	佐藤 秀俊	55	65	120	48	72
準優勝	後藤 泰利	41	45	86	12	74
3位	井上 慎一	41	46	87	12	75
4位	北村 順	45	48	93	18	75
5位	山口 直人	51	56	107	30	77
6位	梅野 哲弘	57	53	110	32.4	77.6
7位	花本 航希	64	64	128	50.4	77.6
8位	佐藤 寛大	54	50	104	25.2	78.8
9位	田邊 一明	58	56	114	33.6	80.4
10位	古志野海人	55	68	123	39.6	83.4
11位	波多野 淳	73	72	145	55	90
12位	長谷川友哉	82	78	160	55	105
13位	田中俊太郎	80	92	172	55	117



# 道

## 編集後記

最近読んだ本より、江戸時代の哲学者であり、医師である三浦梅園の言葉「枯木に花咲たりといふとも、先、生木に花咲く故をたづぬべし」を紹介します。枯れ木に花が咲けばだれもが驚きますが、生きている木に花が咲くことこそ、驚くべきことではないか、という意味だそうです。私たちの日常の医療に落としこめば、枯れた木に花が咲く劇的救命も重要ですが、患者さんが何事もなかったかのように改善することが私たちの医療の理想だと思います。それは生きた木に花が咲くような当たり前で、目立たぬもののように思います。「生きた木が当たり前のように花を咲かせる」、そこにそっと寄り添う役割でありたいと願います。（田邊）



惜別の381系振り子電車

### 島根大学医学部内科学講座内科学第四

#### 循環器内科・腎臓内科

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1

電話 (0853) 20-2206 (医局資料室ダイヤルイン)

Fax (0853) 20-2201 (医局資料室)

循環器内科ホットライン 070-5672-8109

URL: [https://www.med.shimane-u.ac.jp/internal\\_med4/index.html](https://www.med.shimane-u.ac.jp/internal_med4/index.html)